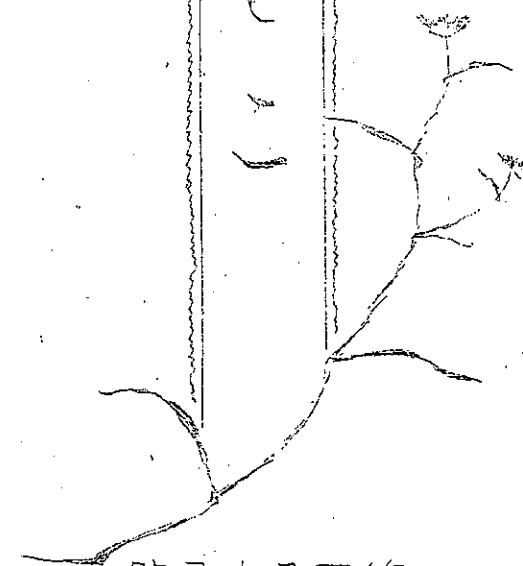


13

たよ
で
し
し
二



昭和十三年十二月號

號八十八百第

大村尋常小學校下編編輯部発行

58 57

十二月學校日誌中より

十一月八日 尋五以上女神社詣り

十一月九日 入營者横山丈夫君ヲ波止場ニ見送ル

十二月三日 大掃除

十二月十四日 第二學期終業式

入營者 大川房平 金川正明 大塚真雄

巖谷五郎 沖山行利 島袋信助 君

波止場ニ見送ル

年末雑感

大村尋常高等小學校長

年末に際し一言申し上げます

お子様方のよすが上にもよきやうに祈る心持は、ご存心ならずもありませんが、最近學校に起つた一二件につきまゝ申上げ、今後の家庭教育上の御参考ともなう申上げたいと思つて居ります。

一、最近本校へ轉入いたして参りました児がおります、その児が或日何處かで金目品物を持ち帰り、それを誰か拾ふた、誰にも言ふなと口止めして使用したり居りましたのが、其筋の知るところとなり、親も子も取調を受けた事があります。不幸にして本校多數の児童中には時として不心得のものも御座います。其等は家庭の、のはぬ者に多いのは注目すべきであります、目立って過失や罪重でなくとも、御家庭の注意の缺けた處に児童の悪癖を造り、基となることが多いのでありますから、十分の御用心が必要であります。

二、女親獨りで多數の児のある家庭の長男であります。其親戚から出来がよければ、上級學校へ入学させる由でありましたので、學校校長は、今後に於ける其児の成長を聞き取りたい所、其答の立派に思はず、涙したので、御座います。曰く、親類にも他人にも世話になりたくない、自分は大勢の児の兄であるから、學校卒業後は十分働いてこの子等を立派に育てる、を決心して居ります。其家庭は餘りとのつた家庭とは申されず、家庭教育は學校の調査では

良い方は見られませんが、それにもか、はらず、其児は真直に強く、正しくのびて居ります。此の二つの例を次々に見ました私は深く考へさせられました。お五様に人の親として自分と児の将来を思ふ時、胸に迫る何ものかを感ずります。

父上よ今朝は如何と手をつきて

とふ児を見れば一死なれざりけり

(落合直文)

御製

すなほにもおほしたるむいづれども
かたぶきやすき庭のわか竹

(了)

二年生の綴方



足をいたくした思ひ出
樋口太

うつの宮にゐたときぼくはすもうを
とつて足をいたくしました。その時
時かんに奪るとこまるから先生にい
つてくれといひました。そうしたら
とちがちがよびにいって来てました
先生がだつこしてきやういんしつに
つれていってくださいました。
先生が走つてみようとおっしゃった
ので少し歩いてみました。そしたら
急にいたかつたのでいすにこしかけ
ました。そしてたらぼくのおねえさん
が来ましたのでかばんをとつてきて
もらひました。そしてこづかひさん
といつしよにうちへかへりました。

おかあさんがどうしましたとおっしゃ
つただけでこづかひさんが「あつとくじ
いだけだすよといひました。ぼくが
いいたい」といつたのでおいしや
さんにいきました。さうしたらおいしや
さんが「ぼねにひぢがはいってゐます
と。そしてほうたいをまいて下さいま
し。そして引ちへがへつてねて下さい
とおっしゃったのでうちへかへつてね
ました。晩ねるとすぐかけつこのゆめ
をみていた。ほうの足をうごかしたの
でいたくて。たまりませんでした。
が二月とは人ぶんぐらひしてとう
なほりました。

奥山悦子

私はきのふおとうさんかところから
にかおくつてくるおとうさんとま
つてゐました。

か、こないのてくるまでまつてゐま
した。もうだん／＼夕方になりまし
た。するとおあさんか「おみをい
れるからふうとうをかつておいでと
いひました。私はともちゃんとう屋
へかひにいきました。ないうつ
たから私はかけてかへりました
するとけいさつのとろでおにいち
やんが有にかおもさうなからを
もつてゐました。私が「おにいちゃん
それねなんだ」ときくと「なんでもな
いよといひましたか私はぶじぎでた
まりませんでした。うちへかへつて
あけて見るといろ／＼なおくわしが
はいつていました。私がたゞでみる
とおいしくて／＼たまりませんで
した。

んできました。えつちんと貝をひろつてあ
るとせんたくやん高ちゃんかきました。
高ちゃんが舟にのるとえつちんか「あつと
ひだしました。高ちゃんが「おつくりした
よ」といふと「あは、とせつちんがわら
ひました。
高ちゃんが一年生になつたある日のこと
でおおちゃんがおくから出て来るとえつ
ちんか「おつくりしたよ」といふと「あつと
いと聞くとえつちんか「おなにかいだい
の」といひました。おあさんか「三人車
でとばしました。おあさんが三人車
ました。それれどもえつちんはとう／＼
なくなりました。
そのばんはおつやでした。あぐり
三時か四時におさうじきか出ました。
えつちんか「きつてゐると二年生でした。
高ちゃんは二年生かえつちんを見るたびに
えつちんのことと思ひだします。

三 三 三
子供の見たじきよく

市本 吳

◎ 今度のせんさうはまけるか勝つかのせんさうだ
から此のせんさうのつゞくかぎり日本人はみん
な心を一にしてはたらかなくてはなりません。
このだいに時をどうせ日本が勝つからとい
つてむだづかひをするやうなことがあつてはなり
ません。ぼくは今度お金をもらつたら一錢でも
よきんをしようと思ひます。ぼくは大日本帝國
に生れてこんなしあはせなことはありません。
ぼくたちのせんさうは勉強です。ですから一生け
んめいしませう。

◎ 國民がみんな心をひきしめなげればこの日本は
おとろへます。だから國民せいしんさうどういん
といふことをしつかりまもらなければなりません。
ん。それにもまらうとするなら心が一つにならな
くてはなりません。さうすれば國民の心がひきし

まるでせう。

◎ 菊井弘子

◎ 日本は今じなとせんさうをしてゐるのである。
悪いしな兵はお金がなくなるとアメリカやほか
の國からお金をかしてもらつてどん／＼日本と
せんさうをしようといふのです。日本の國にもお
金がたりないので、だから私たちは一生けんめ
いに勉強をする。百姓さんは一生けんめに田や
畜をりつぱにする。さうしてじゆうごの國民が心
を一つにしてお金をむだづかひしないであとへ
一錢でもちよきんをしませう。

◎ 沖山 要

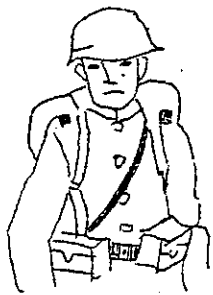
◎ 志國のために働いてゐる兵隊さんは今じなのだ
こいらで働いてゐるでせう。今つよいといはれて
ゐるロシアの國がどうしてしなにお金やひかう
るをいろう／＼の物をかしてやるのだから、日本
の國はびんぼうだのにどうしてがさないのか、
だから僕はお金をつかはうと思つてもつかひま

此の間の晩かつどうしやしんの時いじびんさまよ
くのきよくちやうさんがお話をしたのを私は聞
きました。日本の國が戦をするにはたくさんのお
金があると申されました。それには一錢のお金で
もむだにつかはないでちよきんをすることであ
るといひました。ですから私は一錢のお金でもむ
だにつかはないやうにと思ひました。さうして學
校でつかふえんぴつやちやうめんもていねいに
つかはうと思ひました。

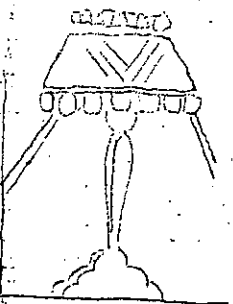
◎ 佐々木 元 著

僕は日本人です。僕は日本がこんななびんぼうだ
とは思ひませんでした。僕はあのにくらしいしな
のためにせんさうがはじまつたのがくやしい。
もし日本の國にお金がなくならたらどうするで
せう。よその國からはびんぼうな國だからかは
れます。だから日本人はむだづかひをしないう
にさせう。

國はわれらの
一錢にとむ



尋 四 六



雲夜の百使

二月月さへてつておる。

空は真青にすんで
行くと道端で、こぼろぎがうれしさをた

空を眺め
向かいの家
木の間に向
かがすかに見え
空を眺め
向かいの家
木の間に向
かがすかに見え

かへつて来た。

雨の降る夜

浅沼 エキヨ

お父さんはつけものをしてゐると見えて、
おはんをかきまわして、お父さんが、私に、「煙草

を買っておいで」とおつしやいました。

私は「からり」と戸をあ
けて、家を出た。小松の前を来ると、急に
明かなくなつて、人が大ぜい居ました。朝日に
行つて煙草を買つて、家に大急ぎで歸り
ました。

お母さんは向かいの方で、お針をしていらつしや
います。私はねむくなりましたけれど、し
めたいを忘れておたので、勉強をしはじ
めました。一時間くらゐ勉強して、お
お父さんが「今日は、静かな晩だ。お
一人をいってゐます。
表では、雨だれが石にはねかへて、いつさ
なした音を立て、おる。

夜の存使ひ

永田 尚子

私はむかむかゆつてはしつた。

私が脱走してあるとお父さんが、尚子お、使ひに行つておくれ。と、おっしゃつたので、こわいけれど、がまんして行つた。だん／＼を上りつくと、猫が、私をみ

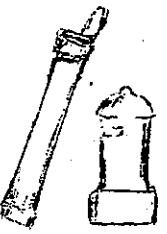
をとった。見えて、いよいよかけて行つた。サツ、カサツ、と、静かな音をたて、馬屋の所まで来ると、止の方から何が

石のやうなものがおちて来た。見上げる。と、夕やきの實であつた。又だん／＼を、おけると、犬が、アワンアワン、ほえてゐた。私はびつくりして、急いで、お使ひしてかへ

つて来た。どうして、私がお使ひに行く時、Fは、こはいものばかり居るのだから、もう、夜のお使ひはこりごりだ。奥山 涼子

「後鏡走」
「ドンドン」
といひ、ピストルの音と共に出した。

「お、何と言ふ美しい氣持よ、まだ早い、空には淡くぼんやりと三日月が中天に、光を放つてゐる。一の鳥居のそばの電球が弱



尋五

綴方

貯金箱

渡邊三朝

夜明けより朝へ 永田稜威雄

お、何と言ふ美しい氣持よ、まだ早い、空には淡くぼんやりと三日月が中天に、光を放つてゐる。一の鳥居のそばの電球が弱

手工の時間を作つた貯金箱君か、つと出来上つた。もう此の間から貯金箱君のお目にお金を

からから貯金を出すのに、つつかい、だから、つたに出した事はない。此の間、たくさんつ

下から貯金箱から出して、學校へ持つて行つた位のものだ。その後、つとためてゐる。もう、く

つてなく、こぼらぬ物である。こぼらぬ、一層貯金箱君にお金を食べさせてやらうと思ふ。貯金箱君、萬歳！

光が輝き始めた。鳴呼、今まで黒い、

光が輝き始めた。鳴呼、今まで黒い、

神様傳様 西村喜美子

朝御飯を食べる前に神様を拜みます。其の時私は戦地へ行つてゐる兵隊さんの武運長久を祈ります。と小聲で祈つてそれから佛様を拜みます。神様を拜む時の氣持のよさは日本人だけにしかわかりません。私は拜む時いつも日本人と生れた嬉しさをつくづく考へます。佛様には由緒のゆんか今こゝにゐるつもりでお水や御飯を上げます。昨日美代姉ちゃんか足に火傷をしたので今朝は美代姉ちゃんか火傷が早くなつてしまふやうにと毎朝拜んでゐる言葉につけて祈りました。

朝 小宮山トシ

目がさめました。すばやく洋服にとゝのへ庭へ出て見るとあたりはまた薄暗かつた。近所の家々ではまだ戸がしまつてゐる。くまどを取つて庭をほき始めた。どこかでも庭をほく音がする。



る。又只「い」と音がしたかと思ふ。といふつるへで水とこぼす音が聞える。氣のよいすかしく朝である。庭を歩いたので食事前に弟をつれて海岸の方へ行つた。海岸の砂濱には沖から波の音の来る波がへす波。又寄せたりのかへり。波の音が氣持よく聞える。その波の音を耳から砂濱の上を弟と二人でしほら。東の方から打金色のかがやかし朝の光が来て来た。朝はしばらく立止つて手を合せて朝日を拜んだ。何も知らず弟も私のまじりて拜んだ。何人かといふ氣持のよ音をたて、機械船が沖の方へ出て行く。あとには船が走つた水面のうねり。何もなげ、黒岩にゐる波はく。高く飛散つてゐる。其の音を聴くと、自家へかへつた。實にこゝろが朝である。

尋六の綴り方

○ 銃後國民の務 佐々木末男

昭和十二年七月七日支那事變勃發以來我が國は莫大の金を使つてゐる。八十億といふ大金を一体誰が出すのか。今日の狀勢では外國に頼ることには出来な。全部國民が負擔しなければならぬのである。しかも此の事變はまだ何年續くか分らない。そして若し日本の力が弱つたならば支那の後押しをしてゐる英佛ソ聯などの國はすぐ攻めて来るに違ひない。此の時日本に金が盡き品物も外國から来ないとすると、いくら大和魂をもつて戦つても結局日本は負けてしまふ。それであるから銃後の國民はみな一致協力して働いて日本の品は外國へどしどし賣出し外國からはなるべく物を買はないやうにして金と品物を節約して此の大事業をなしとげやうではないか。

○ 支那事變に際し 大川武士

なぜ國民は金と品物を節約しなければならぬか。若し銃後の國民が金と品物をどしどし節約してしまつたらいつまで續くか分らない。此の戦争が勝てるならうか。やはり体力と金があることは戦争には勝てない。だから銃後の國民が金と品物とを大切にすることは必要である。それではどうやって節約するかといへば、先づむね使ひをしない。貯金をする。これが國民の第一の務めです。僕等も少づかひをもち、度にお菓子を買つたつもりで貯金をすれば、それがだん／＼積つてたくさん金になる。それが國債を買ふ。するとそれが兵隊の武器を買ふ金に使はれる。さういふやうにして貯金を使ひをしない。貯金しやうではないか。

○ なつかしき叔父 佐々木芳江

ふと空を見上げて今頃何をしてゐるかと、つらやいてお月様を見る。此の月夜は、お月様を照してゐるか。叔父は鴨緑江のそばにゐたのが、匪賊を征伐するためだん／＼と

奥へ行き今はハルボンに居るとの事。昨夜の映画にあつたやうに夜もねないで番兵をしたが、庭まはつて歩いてみるか、知れない。もしも人な所へ匪賊が大勢出て来たりどうだらうと思つたり、いつの間にか涙で一ぱに濡つた。叔父さん、御国のために御骨砕になつて御苦勞様。いつか凱旋の日もありませんか」といつてをがんだ。

○ ガラス ふき、 菊池スエ

土曜日の事である。私達二組は教室のガラスふきに當つた。唱歌を歌ひながら拭いて居る者もある。其の時先生が来られて「今日は御苦勞だ、ガラスに張つてある紙をはがして拭く事」とおつしやつた。私は紙をばり／＼はがし始めた。何枚かのガラスの紙はきれいに取のけられた。けれども糊で張られた部分だけは紙が残つてゐる。今度は水をつけて拭くのである。始めは皆一生懸命拭いてゐたが次第にあきて来て、ほかの人達と話をしてたりして、つともガラスを拭か

うとはしな。正子さん、犬は唯一人黙々と歩いてゐた。私はそれを見て一人にふかしてはすきなと思つて又拭き始めた。一組の人達は掃除がすんで歸つてしまつた。その内先生がもうかへつてよろしいとおつしやつたので、私達は後を片付けて歸途についた。あの日はどおなかのすいた日はなかつたと思ふ。

○ 腕 橋本重男

毎日腕を握つて見るとだん／＼太くなつて行く。そこで考へた。毎日働けば筋肉も発達して行く。怠けてぶら／＼してゐるとだん／＼にやせて氣分も悪い。よく働いてゐる人を見ると體も丈夫である。体が丈夫でなければお国のためにも役に立たない。僕も今までは時々病氣をしたがその時こそ健康の有がたで感ずる。これからはよく運動し働く時ほうと働いて身体の丈夫な人にならうと思ふ。

言 綴 方

思出の海岸 重田弥生

焼けたつく様な白い砂の上で一人貝を拾つてゐた。小石をかきまはすと種々様々な形の貝が顔を出す。見失したならぬ様に石と石を取リのけて、その取つて袋の中に入れて置いた。夏夏の太陽がほかにさしこむ。牙をいさく／＼く／＼んだ袋の口を締め、立あかつて時、腰が今にも曲るかと思ふ様な感じがした。袋を見ても誰に言ふとなくつ／＼とあるさ出た。立あがつて今居る廣邊を振り歸つて見て、あ、暑かつたよ、あんた所で我慢して拾つておをねーと自分てつく／＼感心した。

波は静かに寄せて来てはさつと引いて行く。私に「さようなら」と言つてゐる様な氣がする。こゝろは早くも過ぎ去りし夏休の思出であつた。

漁村 太嶺文二

まだ夜の明けないうちに海岸に行つた。カヌーが一ツツ出で行く。扇浦の燈が赤く見える。まに誰も歩かぬ海岸を一人で歩いて居るうちに夜が明けはじめ旭山が赤々と光りはじめた。朝三、朝五、實に朝七。向いから人々、人々が二人して来る。その後、カヌーが水ながらついで来て、僕の足にからまる。僕は犬をかくけつた。犬は遠くへ逃げたがま

たかけしどつて来た。それにて僕は海岸
に飛んで来る船にのつてしまつた。度々
とした港を見るとき向ふがウツバガ
羽とんで来た。

海岸 奥山求

焼けつく様な日光はしきりに私
に照つて来た。砂を見るとき目をつき
とけす様な氣持がする。巖の
方で漁のカヌーガニツニフ海岸
に向つてくる。沖の方を見るとき白
帆が一ツニフ浮んでゐる。亦蒸気
船が海の上をすべる様に波止場
に向つてくる。岸壁では大勢
釣をしてゐる。通りの方を見るとき
自動車ガ氣持よくはしりまはつ
てゐる。

江南の旅情 祖詠
楚山極志可からず
歸路但見蕭條たり。

江聲 夜潮を聴く。
江色 晴水雨を着
劍口南斗に留まつて近く
書風北風に寄せて遠なり。
爲に報ず空潭の橋
洛陽に寄するに媒方無し。

高二級方

奥山昌英

ガシと軽快なうなりをたてて
波止場には子
正月近しいよの火また
汗ばむ程

この正月は名物のからつ風がび
とつてくる。明松も寒さうに
まわらなつてやつて風や
活動寫
人な氣分だ。島の故にみなおほ
がつてゐる。餅こまうのは細

長い風で糸目も長くうなりも紙だ。し
る時は氣持がよい。
正月といへば風、風といへば正月と聯
想される程のもの。
年のはじめのためとて五けりなきよ
の目立たさそと歌ふその調子
東京のことが思ひ出されてなくとなく
今の世がうがいとまくらへて淋しく暮
けいへんな感かする。

今非非常時だ。う長な日本ではな
だ皆一致團結してこの國難に力りさ
覚悟が肝要だ。氣のせいかな四半の正月
はみな質素に行はれ酒に呑まれる人は
少なうだ。
ふと、氣がついて空を見る。と風は
やつぱり軽快なうなりをたて、空の一
角にすはつてゐる。

国旗 土屋七子

日本の国旗は、まんと清く正し美し、
赤は、一政團、紅は、燃ゆる正義を現はし
白は、清く正し、黄は、いかに平和な印
とす。紅の色、白は、いかに平和な印
とす。一政團、紅は、燃ゆる正義を現はし
白は、清く正し、黄は、いかに平和な印
とす。

けにこの御旗も上にして
買の子は笑みて死するなり
昔も今も後世も

教にもあるやに日章旗を見て安
心してにこり笑つて死んだ人も多
い。國々には各、国旗はあるが日本のよ
うに清く正し、黄は、いかに平和な
とす。

この支那事変でも日清戦争でも日
露戦争でも日章旗を先頭に
て進み行きて命をすて、も日章旗
を穿つて行くといふやうな大和魂を
發揮した事は少くない。君が代の
歌に「づく」と大空に昇りゆく
神々しき。私達もあり国旗のやう

に清く正し、人にならうとはありせんが。

今週の訓練事項を顧みて 石津弘子

一物を大切にすること、また使起しな
事である。今日本は何事も経済多と叫ば
れてゐる。これは、いふまでもない事である。
物を大切にすること、私達が行な
ひついで一番手近の道は普通使用して
ゐる雑貨、西洋紙、等丁字等に使用して
である。我が国では木材が少なくてカナダ
スエーデン等からパルプを輸入してゐる。富
士山麓附近で製紙工業が盛んである。殊に
大宮製紙は我が国で最高級の製紙地であ
る。外国よりパルプを輸入してそれを原
料にして製する紙と思へば一枚の紙もた
たてが、又方々の店でも包紙を廃して
なるべく風呂敷をもつて買物にくるやうに
してゐる。
今迄のことば紙のことであるが紙ばかりで

な。すべて儉約しなければならぬ。
例へば着物には国産品スエーデン
製の外国から多く輸入してゐる綿織
物から綿織物は製するものである。
この綿織物をなるとだけ使はないや
うにする。
また使ひの上りて一裁でも新金する
やうに心掛けねばならぬ。一裁でも野
金すればそれだけ国家が繁栄になる
のである。それであるから私達は日
本国民として大いに野金すべきであ
る。今週の訓練事項を顧みて
今週のみではなく將來の心掛け
で毎日くをすことではないか。

時局と歳末 佐山和子


非常時とはいふながら十二月末と
もなると家及びはすはきなど
どして新年を迎へる楽しい
風が自見える。

自分達にとつては楽しい新年である。

それにつけて思ふのは支那で働
ていつしやる軍の方々である。
度々家事の時間には方枝先生が支
那ではたらくてゐる。兵隊は日本
の国の人達が、お正月だからといつて
奇麗な着物をきてちやうど遊ん
でゐること考へると自分達は何
うたがに戦つてゐるかわからなくな
つて命をたがへたて働いてゐること
が馬鹿らしくなる氣になるんです。
だから比喩もお正月だからあそびのは
うんと思ひこりない程遊んでもい
後算をたててさちんくとしてあそ
事が大切で、と聞かされた。その度
に、なるほどと心の中が感心した。
昨夜もラジオで大蔵省の事を放送
したがこの方面にはたらくてゐるニカ
の苦勞も、大抵のものではない。
い。だから今、経済調整週間といふ

のまつくつては即約にしくしこの
 聖戦に使用する八寸金徳の莫
 大な金を外国からかりつて日本自
 内一つでやつてみせると國威遠は
 緊張してゐる。この學問も今週
 年々ことごとく無駄使をうたつた物
 を大切にするとしてある。お達もこ
 の方針にもとづいて節約しそれ
 で国債をわけて國の爲めに盡くさ
 うと思はつてゐる。

十二月重要曆

- 八日 針供養 女子は一日針仕事を休み針の傍を摘み此の日
は事納むる針を祭る女子のやまゝ心か日
- 十三日 皇軍南京城占領 昭和十三年十二月十三日
- 同日 煤拂 後土御門天皇の御代から
行はれるやうになつた
一年中煤を拂ひ清
めて新年を迎へる用意の日
- 十四日 赤穂義士吉良上野介を討取り君恩に報じた日
- 十五日 大正天皇祭 
- 二十九日 松飾り 門松を立て、迎年のお飾をする。
- 三十一日 大祓の日 鎮守社に於て一年中一切の穢を抜い
清めて無事迎年を祈る日

なでしこ第百八號 昭和三年十二月號 森島尋常小學校編輯部發行

年 末 警 告 歌

あつあつと
おまかせ
だまされて
今もまじ
まじす
せのす